

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0793230012		
法人名	有限会社T&T		
事業所名	認知症対応型グループホーム高原の家よつくら		
所在地	福島県いわき市四倉町上仁井田字タ円164		
自己評価作成日	平成30年12月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉ネットワーク		
所在地	〒974-8232 福島県いわき市錦町大島2番地		
訪問調査日	平成31年1月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様一人一人がその人らしい生活出来る様な環境作りを支援し、「利用者本位」「異体同心」「地域密着」を理念に掲げ、職員と利用者様が家庭的な空間で生活しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域密着型サービスの意義を理解し、市町村担当者に日頃から電話をしたり、出向いて事業所の情報を伝え、相談し助言をもらうなど、利用者がその人らしく笑顔で楽しく暮らせるよう取り組んでいる。職員が笑顔であいさつや会話をするを大切に、利用者が明るい雰囲気の中でゆったりすごせるようにしている。朝の申し送りなどで情報共有を徹底し、すべての職員が同じように支援を行い、利用者が安心できるようにしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者様が安心して生活できるよう「利用者本位」「地域密着」「異体同心」を理念に掲げ、職員が目に入りやすい所に理念を貼り、意識して実践につなげられるよう努めています。	法人の理念を元に、事業所独自の目標を考え、利用者と職員が笑顔で元気に過ごせるようにしている。朝の申し送り時に理念を復唱し、意識を確認しながらケアにつなげている。職員は、元気で挨拶することを毎日心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	いわき市ということもあり地域の人々と交流する場が少ないですが、慰問や外出時などを通じて少しずつですが地域とつながる機会が増えてきています。	ボランティアの方が、フラダンスや歌を披露してくれ、利用者は楽しい時間を過ごしている。定期的に訪問してくれる生徒さんが、ハンドベルの演奏・歌を歌ってくれたりするなど、利用者は楽しみにしている。地域の方の清掃活動に参加している。	
3		事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方からの質問などがあった時は返答させてもらっていますが、事業所から地域の方に認知症の人の理解や支援方法を活かすような場はつくれていません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では運営状況報告し、地域の方から情報を得たり意見交換しながら今後のサービス向上に活かしています。	家族から外出時、トイレが心配との話があり、介助方法を説明し心配することがないよう理解してもらっている。音楽活動しているボランティアを紹介してもらい、訪問していただき楽しい時間を過ごしている。待機者の情報などを知らせて貰っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の時など保健福祉課・地域包括支援センターの方などと、情報交換や入居相談・状況報告などを行っています。	市町村担当者と日頃から連絡を取りながら、出向いたりして協力関係を築いている。相談ごとには適切な対応があり、ケアサービスに活かしている。研修関係の案内を知らせてもらい、参加し職員の質の向上につなげている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないケアの為に、ミーティング時にヒヤリハットについての話し合いを行い、職員同士意見交換を通じて身体拘束への意識を職員同士高めています。	身体拘束はしないことを基本と考えている。転倒が心配な方には、家族と話し合いながら対応するようにしている。一人歩きの方には、必ず行動の理由があると考え、職員が一緒に見守りながら出かけ、安全面に配慮している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について研修などで得た情報を職員間で共有し、職員同士で広く捉えるよう話し合うことで早期発見・早期対応に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在権利擁護に関する研修などに参加できていないですが、今後機会があれば参加していき、ミーティングなどで伝え活用できるようにしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、できるだけ解りやすく説明し、家族様が十分にご理解して頂いた上で契約を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様の面会時など状況説明や意見交換を行うようにし、意見・要望があれば職員間で共有し業務改善につなげています。	家族との会話を大切にして、要望や不安な点を聞き、ケアに反映させている。無理せずごしてほしいとの要望が多く、ゆったりと生活できるよう心がけている。経過を報告し、家族が安心できるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員や管理者が気兼ねなく話せるような職場の環境を作り、職員からの意見や提案などは大切に考え、運営に反映させています。	職員の気づきやアイデアを前向きに受け入れ、ケアに対しての疑問や不安にも耳を傾けて話し合っている。職員の資格取得の際は、勤務体制を考慮し協力し、資質の向上に積極的に対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	休憩時間などを利用して随時職員とコミュニケーションをはかり意見を求めたり、資格所得に対してのサポートも実施しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会の情報を提供し、希望する職員や必要と思われる職員に対し研修をすすめられています。研修内容はミーティング時など報告出来る場を設け、情報を共有しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や他施設の夏祭りの参加により、職員同士の交流する機会を作り情報の共有・サービスの質の向上に繋がっています。ネットワーク作りまではまだ出来ていません。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境に慣れていただき、本人様から要望などの話が出る環境作りと、信頼関係が築けるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメント時やお申込み時などで、家族様の不安や困りごとや要望など伺っています。伺ったご意見を入所後のサービスに反映させています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申し込みの段階で本人様とご家族様が今、何を必要とされ申し込みしているのかを傾聴し、必要とされているサービスを見極め支援に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様それぞれの能力を見極め、その能力を十分に活用していただきながら、職員と利用者様が共に協力しながら生活を送っています。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の近況や対応困難な時など、電話や広報誌等で報告し、状況に応じて家族の協力をいただいております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の地元ではないので馴染みの人や場所を途切れないようにするのは難しいですが、友人様などの面会時にはゆっくり会話していただけるよう支援しています。又、利用者様の地元へ花見やドライブなどにも出かけています。	友人や孫などの訪問時は、居室にお茶をだし、気兼ねなくすごせるようにしている。一緒に写真をとって居室に飾るなど、思い出も大切にしている。期間があいた時には、電話で利用者の様子を伝え、訪問してもらえるようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が会話・作業出来る様な環境作りをし、お互い助け合い生活出来るよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後なども気軽に立ち寄っていただけるような環境作りに努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話の中で表情や言葉などから、利用者様の思いや希望をくみ取り本人の意向に沿った支援が出来るよう努めています。意思疎通が困難な利用者様は表情や仕草に注意しています。	利用者の行動には意味があると考え支援を行っている。トイレに行きたいのに浴室に向かうなど、意向と行動が伴わないこともあるので、注意深く見守っている。うなずきで意思表示ができる方には、答えやすいように問いかけ方を工夫している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際、家族や本人様から生活歴を聞き、その経過から支援できるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌・バイタル表・排泄表を設け、職員で情報共有できるようにし、状況に応じた対応が出来るように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティング時などに利用者様の意向やケアについて話し合い、それぞれ話し合いの結果がケアに反映されるよう、介護計画を作成している。	本人や家族の希望を重視して、無理のないように計画を作成している。状況が変わった時や、医師から提案があった場合には、話し合いをして計画を変更し、内容を共有してケアに反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の日々の様子や状態の変化などはケース記録に記入し、申し送りノートを活用し情報を共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様と家族様の状況に応じて必要とされるニーズに応えられる様に話し合いを出来る環境をつくり、負担軽減に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受け入れや、二ヶ月に一回の訪問理容を活用しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な受診により、医師と相談しながら適切な医療を受けられるよう連携を図っています。	かかりつけ医から、家族の要望で協力医療機関に変更している。受診は職員が代行している。内科以外を受診するときは、協力医療機関から紹介状を貰い、安心して受診してもらえるようにしている。利用者の身体状況を、家族に知らせ共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活の中で感じた変化などを、申し送りや看護職員に相談し適切な受診や看護が出来るよう支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時や面会時などの声かけや、その時の状態を聞き情報交換すると共に病院関係者との関係づくりに努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、看取りについての説明・契約を交わし本人様・家族様の意思を尊重し支援できるように努めています。重度化した場合などは医療機関から現在の状態を説明してもらい、事業所が出来ることを十分にご家族様へ説明するように努めています。	重度化や終末期の対応は、協力医療機関と緊急時の連携体制ができています。重度化した場合は、職員が利用者に声かけし、一人じゃないと安心してもらえるようにしている。看取り時には、家族の方が宿泊できる部屋を設けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や応急手当などの訓練を定期的に行う出来ていませんが、ミーティング時などに看護師からの説明や急変時などの連絡網の再確認を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、夜間を想定した避難訓練を行い避難経路・火災報知設備・消火器の確認を行っています。	消防署の方から避難訓練後、火災報知機・避難経路の確保・玄関の施錠等についてアドバイスを貰い、次回の訓練に活かすようにしている。反省会を開き、安心・安全に避難できるようにしている。非常用食料等の日付を定期的に確認し交換している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人ひとりを尊重し、個人的な内容は居室で伝えるよう支援しています。	一人ひとりが何をしたいのか、表情・行動から困っていれば声かけし、無理強いせず尊重し対応している。洗濯物等の交換は利用者に声かけし行っている。利用者同士が、プライバシーを損ねるような時は職員が間に入り話をそらすなどしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様と職員が会話できる環境をつくりや何気ない会話から利用者様からの思いを話していただけるよう信頼関係をつくり支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりの生活のリズムを大切に利用者様の希望に添った支援をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に一回の訪問理容の際、利用者様の希望を聞き散髪してもらうよう支援しています。毎朝、鏡とクシを手渡し整容していただいています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日などは利用者様の希望を聞き、希望の食事を提供させていただいています。行事食なども利用者様と相談しながら一緒に決める事が出来るように支援しています。	利用者の要望を取り入れ、職員間で話し合い献立づくりをしている。その日の献立に食べられないおかずがあれば、利用者一人ひとりにあわせ調理し、食べてもらえるようにしている。職員は、安心して食事ができるよう、介助や見守りをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量を毎日記録し、利用者様の好みに応じた量、形態の食事を提供しています。一度に水分を摂取出来ない方などは居室にて少しずつ摂取出来るよう支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけを行い、一部の方は見守りしています。夕食後義歯の方は洗浄剤に浸けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の間隔の確認や利用者様の落ち着きが無いような仕草や表情の時など、声かけさせてもらいトイレにて排泄してもらうよう支援しています。	利用者の能力を活かし、維持できるようにと考え、その人の持っている力に応じて支援をしている。自立している方は見守りと確認、声かけが必要な方は時間をみて誘導するなど、すべての職員で同じ対応ができるようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の運動やお茶の時間などにホットミルクやヤクルト、食事の時にヨーグルトなど乳製品の提供をさせてもらっています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴前に声かけさせてもらい、本人の意思を尊重しています。一部の方には前日に声かけさせてもらい無理なく入浴してもらえるよう支援しています。	入浴を嫌がる場合には、家族の協力を得て着替えや清拭を行い、清潔を保っている。季節にあった入浴剤を活用し、職員とゆっくり会話を楽しんでもらうなど、リラックスできるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調や希望に応じて休息していただいたり、昼食後には休息できる時間を取り入れ無理のない生活をしてもらえるよう支援しています。又、気温や気候に応じて空調の調節を行い、快眠できる環境作りを行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬説明書を個人ファイルで確認できるようにし、薬の変更や追加などがあった場合は、申し送りノートに記入し全職員が把握できるようにし、確認印を捺してもらっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の能力に応じて、楽しみごとなど行ってもらって、洗濯たたみや掃除など、その方に役割や生きがいを持って生活してもらえるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族様と外出される利用者様もおられますが、回数は少ないです。ホームでも外食を企画し食事に出かけたり、花見などのドライブや地元の施設と芋煮会など行っています。	暖かい季節には、散歩にでかけたり、車いすを利用して近所の桜を見に行ったりしている。遠出が難しい方でも、庭にでて野菜や花を育てるなど、戸外にでる機会をつくっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在お金を所持されている利用者様はいませんが、何か欲しい物があれば職員に伝えてもらい、家族様に相談し購入していただいたり、職員の方で購入させてもらっています。ホームで外出時などは利用者様と職員で買い物を行ったりもしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	昔の友人などと電話で話されたり、手紙のやり取りを行っている利用者様もおられます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様と作成した貼り絵や行事ごとの作品などを飾ったり、職員が季節の花などを活け四季を感じてもらっています。	観葉植物に、利用者が水やりや鑑賞を楽しんでいる。定期的に席替えをして利用者の気分転換をはかっているが、利用者が混乱しないようにしている。手洗い・マスク・アルコール消毒を徹底し、温度湿度を調節して、感染症の予防をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個別に居室で過ごされたり、気の合った利用者様同士がくつろげるような席の配置になるよう工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている。	家族の写真や手紙、人形・作品などを飾り、その利用者様が居心地良く過ごしていただけるよう工夫しています。	危険物以外は利用者に自由に持ち込んでもらっている。居室の入り口に、利用者の選んだ写真や作品を飾り、自分の居室がわかるようにしている。衣替えは、利用者職員と一緒にすることもあり、衣類等が不足していれば家族に声をかけている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室、自分の居室などは、認識しやすいようにプレートを設置し、自立に近い生活を送れるよう配慮しています。		